

地方創生まちづくり 特別委員会会議録

平成31年3月14日(木)午後1時30分
小美玉市役所 3階 議会委員会室

小美玉市議会

地方創生まちづくり特別委員会

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議長あいさつ

4 執行部あいさつ

5 協 議

①ダイヤモンドシティ・プロジェクトについて

②学校跡地利用について

③その他

6 閉 会

出席議員（9名）

3番	木村喜一君	6番	幡谷好文君
7番	谷仲和雄君	9番	岩本好夫君
10番	福島ヤヨヒ君	12番	小川賢治君
16番	大和田智弘君	18番	市村文男君（議長）
20番	野村武勝君		

欠席議員（2名）

17番	戸田見成君	19番	荒川一秀君
-----	-------	-----	-------

付託案件説明のため主席した者

市長	島田穰一君	市長公室長	岡野英孝君
企画財政部長	立原伸樹君	産業経済部長	山口守君
福祉部長	中村哲也君	都市建設部長	小松修也君
企画財政課長	佐々木浩君	政策調整課長	中村均君
市民協同課長	滑川和明君	子ども福祉課長	笹目浩之君
施設整備課長	藤田誠一君	商工観光課長	長谷川正幸君
都市整備課長	真家厚君	子ども福祉課長補佐	酒井美智子君
秘書公聴課長補佐	箕輪淳子君	企画調整課長補佐	阿久津清隆君
施設整備課長補佐	狩谷学君	地方創生推進係長	磯部朋広君
シティプロモーション係長	中本正樹君	商工観光課長補佐	中島太宜君
広報公聴係長	菅澤富美江君	政策調整課主幹	近藤剛君

議会事務局職員出席者

書記 富田成

午後 1時30分 開会

○副委員長（幡谷好文君） 皆さんこんにちは。地方創生まちづくり特別委員会を開会いたします。

まず、岩本委員長よりご挨拶をいただきます。

○委員長（岩本好夫君） 改めましてこんにちは。お疲れさまでございます。

急な案内にもかかわらず、13時30分からということでありありがとうございます。

今日午前中総務常任委員会がありましたもので、その委員会終了後ということではっきりしなかったもので13時30分からということになりました。ご参集いただきましてありがとうございます。

地方創生まちづくり特別委員会なんですけど、12月の定例会におきましてはうちのほうの特別委員会の事情で執行部を呼んでの委員会を開けませんでしたので、この3月の定例におきましてはダイヤモンドシティ・プロジェクトの進捗状況であったり、学校跡地事業についてしっかりと協議を進めていきたいと思っております。

わたしたちも余命いくばくもありませんので、残された中でしっかりと地方創生を進めていきたいと思っております。

執行部の皆さんにおかれましては、親切丁寧なご答弁と、委員の皆さまにおかれましては、活発な意見をいただければ幸いにございます。よろしくお願いいたします。

○副委員長（幡谷好文君） 続きまして、市村議長よりご挨拶いただきます。

○議長（市村文男君） それでは、大変ご苦労さまでございます。

地方創生まちづくり特別委員会急な時間ということになりましたけれどもよろしくお願ひしたいと思っております。

いよいよダイヤモンドシティ・プロジェクトも最終年度ということでございますので、この1年間しっかりとよろしくお願ひしたいと思っております。

本日は、大変ご苦労さまでございます。

○副委員長（幡谷好文君） 続きまして、執行部より島田市長にご挨拶いただきたいと思っております。

○市長（島田譲一君） 改めてこんにちは。

議員の皆さんには地方創生まちづくり特別委員会ということで、お忙しい中ご苦労さまでございます。

また、予算特別委員会全議案可決をいただいたということで、心から感謝申し上げる次第でございます。

また、今日は総務常任委員会午前中全議案可決をいただいたということでございました。誠にありがとうございました。

また、地方創生はただいまありましたように、ダイヤモンドシティ・プロジェクトに基づいていまままで進めてこられたわけであります。いよいよ大詰めの段階に入ったということでございますし、もうひとつ下に学校跡地利用についてということであります。いま、委員会のほうでも詰めている状況でございますので、これからどう進めていくかということでご意見をいただきながら、よりよい跡地利用を考えていかなければいけないと思いますので、よろしく願いしたいと思います。ご苦労さまです。

○副委員長（幡谷好文君） ありがとうございます。

それでは、協議のほうに移りたいと思います。協議の進行は岩本委員長お願いします。



◎開議の宣告

○委員長（岩本好夫君） それでは、協議事項に入ります。

まず、最初に執行部の皆さまには反問権付与されていますので、必要の場合は委員長のほうにお願いいたします。

委員の皆さまにおかれましては、自由討議必要な場合はこれも委員長に一言お願いしたいと思います。

1. ダイヤモンドシティ・プロジェクトについて執行部より説明を順次お願いいたします。

○子ども福祉課長補佐（酒井美智子君） それでは、1. ダイヤモンドシティ・プロジェクトについてお手元に配布されています資料、関連事業一覧表に基づきまして、説明をさせていただきます。

まず、最初に子ども福祉課所管につきまして1番から7番まで一括で説明をさせていただければと思います。大変恐縮ではございますが、着座での説明をお許しいただければと思います。

それでは、一覧表めくっていただきまして、ページ番号1をご説明させていただきます。

事業名でございますが、恋愛結婚イメージアップ事業ということで予算額 18,000 円、執行額 17,280 円でございます。

事業内容につきましては、恋愛結婚のイメージアップを図るためということで、オリジナル婚姻届を作成しております。小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づきまして、恋愛・結婚のイメージアップを図り、結婚を記念するしかけとしてロゴデザイン・小美玉市の農畜産物をあしらったオリジナル婚姻届を作成いたしました。市民課、小川総合窓口課、玉里総合窓口課で配布しております。年度で500枚を印刷しております。

添付の資料をご覧くださいと思います。別添資料ということで、オリジナル婚姻届と記念賞の配布枚数及び受理件数の集計表をつけさせていただいております。

平成30年度におきましては500枚印刷しております、今年度368枚の婚姻届を配布しております。

このオリジナル婚姻届で出されたものについては105件、それ以外の婚姻届につきましては359件ございますので、オリジナル婚姻届による届出率は23%弱ということになります。

資料戻っていただきまして、課題及び反省点でございます。

婚姻届は、配布数も届出数も昨年とほぼ同じで横ばいでございます。今後利用者を増やすための方策を検討してまいりたいと思います。

また、本庁者入り口に置いてあります記念撮影用パネルも活用しきれていないことから、活用方法が検討課題になっております。

対応策といたしまして、今後オリジナル婚姻届で届出していただいたカップルの方には記念賞を贈呈して、記念撮影パネル前での撮影について声かけをするなど、結婚をお祝いするという機運を高めてまいりたいと考えております。

自己評価でございますが、概ね達成したでB評価をつけさせていただいております。

続きまして、資料番号2ページでございます。

多彩な合コン・街コン事業でございます。こちらにつきましては予算額50万円、執行額50万円ということです。

事業ないようでございますが、様々な形での出会いの場の創出等、多彩な合コン・街コンを開催するというので、結婚推進事業実行委員会を組織し、その組織に対して運営費用補助として50万円を執行させていただいております。

実施状況および成果でございますが、小美玉市結婚推進事業実行委員会主催の事業と、それ以外の事業ということで記載をさせていただいております。

結婚推進事業実行委員会主催事業につきましては会議の開催を3回しております。事業につきましても3本実施しております。

1本目が、ブルーベリー摘み取り体験しながら恋活ということで、7月15日（日）に実施しております。「農業に対する理解を深めることで農業後継者の結婚支援に役立てること」×「小美玉市がブランド化を進めるブルーベリーのPR」を考えまして、ブルーベリー摘み取り体験しながら恋活ということで実施をいたしました。

ブルーベリーを摘み取り体験や、それを使ったジャム作り、スイーツ作りを通して交流機会を設けました。

募集は男女とも各15名ということで募集をかけまして男性24名、女性9名からもお申し込みをいただきました。キャンセルもございましたので、男性14名、女性7名で実施いたしました。カップル数が3組誕生いたしました。その下に感想を記載させていただいております。このブルーベリーを摘み取り体験しながら恋活のほうは、なかなか高評価をいただきました。

その次、仕事帰りに気軽に恋活（まずは出会いから）ということで、1月18日（金）に実施いたしました。

対象年齢を少し高めにとということで、40歳から55歳を対象にした企画内容になりました。仕事帰りに軽食をつまみながらおしゃべりやハーバリウム作り体験を楽しむ企画として、アルコールも提供しますということでうたって募集をかけました。

公共交通会議に公共交通を使って帰っていただけるよう羽鳥駅横のともいきプラザを会場に実施したものです。

募集につきましては、男女各7名ということで募集をかけましたが、申し込みいただきましたのが男性5名、女性3名でした。参加につきましても男性5名、女性3名で実施し、カップル数につきましては1組でした。

感想のほうにございますが、もう少し人数が多いほうがいいのか、仕事帰りということで開始時間に間に合うか不安だったので時間的に余裕があればよかったという感想をいただきました。

3番目の事業でございますが、早春のいちごを味わう婚活支援事業ということで、3月16日（土）に予定しております。お手元もほうに実施のチラシを配布させていただきました。

募集は男女各10名ということで募集をかけましたところ、申し込みのほうは男性20名、うち1名は対象年齢35歳からということだったんですが、34歳の方からのお申し込みがありましたので、この方は要件外ということで参加は見送っていただきました。男性20名、女性のほうは11名ということで記載してありますが、昨日1名追加があったので12名になったんですが、キャンセルも1名ございましたので結果として11名ということで、10名ずつの枠だっ

たんですが女性の方 11 名お申し込みをいただいておりますので、参加枠を拡大して男性 12 名女性 11 名で実施を予定しております。

その他の婚活支援事業ということで、小美玉市茨城空港利用促進協議会主催で夜空コンということで、そ・ら・らと茨城空港を会場に 9 月 9 日に実施しております。参加者数は 360 名でございました。

石岡地方結婚推進事業実行委員会主催ということで、小美玉市、石岡市の結婚相談員で組織しております委員会でございます。12 月 15 日土曜日に、100 万球のイルミ DE 逢おう！ということで、フラワーパークを会場にして実施したものでございます。こちらについても各 15 名で募集いたしましたが、お申し込みが多かったので各 18 名で実施いたしました。キャンセルがございましたので参加男性 17 名、女性 16 名で実施させていただきました。

その下、ワクワク♪ドキドキゲーム DE 逢おう！ということで、2 月 9 日土曜日に予定しておりましたが、こちら最少催行人数以下でございましたので中止となってしまいました。

その次でございます。

マリッジサポーター主催ということで、相談会を 7 月 8 日、11 月 25 日に 2 回実施いたしました。

また、ふれあいパーティにつきましても 1 回開催いただきまして、46 名の方に参加いただきカップル数 5 組が誕生いたしました。

その他、いばらき出会いサポートセンター主催ということで、小美玉市本庁の会議室を使いまして相談会を 1 回実施していただきました。その他いばらき出会いサポートセンターさまには、婚活イベントの周知等にご協力をいただいているところです。

これら事業を実施した中で課題及び反省点でございます。マリッジサポーター等県の団体や民間団体等が婚活事業に取り組んでいることや、参加者の婚活事業慣れがみえたことで、連絡なしのキャンセルとか参加人数の確保というのが課題となっているところでございます。今後、直営事業を実施することにつきましては、その下対応策でございますが、

1. 参加者のアンケート結果等を参考にしながら、参加者の確保に努めること。
2. 若い世代を対象にしたイベントが多い傾向にあったが、出会いの機会が少なくなっている世代の婚活支援を希望する声もあったので、様々な年代を対象としたイベントを企画してまいりたいと考えております。いずれにしましても、企画内容で募集人数を上回ることもありますので、参加しやすい事業の企画と効果的な周知を実施してまいりたいと考えております。

その他でございますが、婚活事業に取り組む民間団体等もみられることから、将来的には民

間への委託とか補助する形での実施し、地域活性化との連携を模索するとともに、マリッジサポーター事業の周知に努めるなど、婚活環境の充実を図ってまいりたいと考えております。

自己評価でございますが、達成したということでA評価をつけさせていただいております。
続きまして、3ページでございます。

婚活事前講座事業ということで、コミュニケーション講座や、ファッション・マナー講座等婚活に必要なスキルを習得する講座ということで、婚活事前講座を予定しておりましたが、こちら31年2月9日に実施を予定しておりました「ワクワク♪ドキドキ♡ゲーム DE 逢おう！」という婚活イベントの前のところで実施する予定でありましたが、こちら婚活事業自体が中止となってしまいました。

本来でしたら婚活パーティの事前講座として男性向けに「スマート男子への心構え」というテーマで企画しておりました。

内容は、女性への理解、婚活パーティでの注意点等、婚活が実りあるものになるようにサポートすることで考えておりましたが、事業自体が中止になってしまいましたので、今年度予算額8万円をつけていただいておりますが執行額は0円になっております。

課題及び反省点でございますが、イベントの周知をホームページでの掲載のみ公募であったため、周知が十分でなかったというところを反省しております。

対応策でございますが、事前講座の受講により婚活の成果が十分得られるよう今後も婚活イベントの内容と、講座の内容をリンクさせるなど魅力ある講座にするよう内容を工夫してまいりたいと思っております。

自己評価でございますが、今年度実施できておりませんでしたのでD評価とさせていただきました。

続きまして、4ページでございます。

事業名 出産祝い事業でございます。予算額800万円をつけていただいておりますが、執行額としまして現在585万円を執行しております。こちらにつきましては、下にも記載しておりますが、2月15日受付分までということでございます。

事業内容でございますが、子育てしやすいまち小美玉市を目指すため、お子さんの出生日に出産祝い金を支給するというものでございます。その下でございます。

条件は、対象児がお生まれになった時に、小美玉市に最初に住民登録をしていただくなどの要件がございます。金額でございますが、多子世帯に対して手厚い支援になるよう段階的に祝い金を増額するというので、2万円、3万円、5万円ということで設定しております。

申請状況でございますが、2月15日受付分までということで、282件の申請をいただきました。このうち支給件数が268件で585万円でございます。その他不支給ということで8件ございました。現在審査中というのが6件ございます。

課題及び反省点でございますが、本事業の周知につきましては、広報紙や子育てサイト、母子手帳の配布時など様々なタイミングでの手続きのご案内をしており、周知漏れ者はほぼないと思われましたが、極めて稀な条件が重なった場合に漏れるということもありうる事が判明しましたので、口頭による説明だけではなく未申請者の方に対して、お子さんお生まれになりましたがまだ出産祝い金申請していただいておりますのでということで、勸奨通知を発送するなどしてできるだけ多くの方に給付できるように努めているところです。

その下滞納による要件につきましては、今後さらに検討してまいりたいと考えております。

対応策につきましては、平成31年度も引き続き実施するというので、自己評価Aをつけさせていただいております。

続きまして、5ページでございます。

イクメン成長物語事業でございます。こちら予算額7万9,000円をつけていただいております。執行額は1万3,550円でございます。

事業内容としましては、父親となる方を対象とした講座ということで、カジダン、イクメン、域メン、イクボス、イクジイなど様々な場面での男性の育児参加を促す事業を展開していくということでございます。

今年度は、その下実施状況及び成果でございますが、

「男性だって楽しく育児に参加したい」をコンセプトに、日ごろ子どもたちと過ごすことが難しい父親が、市内事業所等の理解・協力を得ながら子どもたちと一緒に楽しく過ごせる機会を企画しようというもの。また、幅広い年代の子どもたちとその父親が集い、それぞれの子どもたちとの接し方を見て・聞いて、父親同士が子育てに関する情報交換をしていただくということを企画したいと考えました。

また、その下でございます。

子育て応援事業実施するにあたり、お父さまとお子さまの関係だけではなく、事業所等に対して小美玉市子育て応援事業の趣旨に賛同いただけるかどうかの意向確認を実施させていただきまして、賛同事業所を広報紙に併せて掲載させていただきました。

その内容でございますが、その下依頼内容ということで記載させていただいております。事業所内に子育て応援事業を実施するということの周知とか、趣旨の普及等にご協力いただける

こと。

また、この事業に参加したいという希望者がいた場合には、休暇の申し出に対する周りの協力とか理解をお願いしたい。その他、この趣旨に沿った取り組みをしていただける方につきましては、賛同事業所としてご協力をいただきたいということで、ご案内を出させていただきました。送付しましたのが、子育て応援事業登録事業所及び市内の企業連絡会会員事業所さまに通知を出させていただきました。その結果、この記事に併せて賛同事業所として掲載させていただきました企業さまは事業所数として 33 事業者ありました。その掲載締め切り後にも賛同事業所が数箇所いただきましたので、今後ともこういった賛同事業所さまを増やしていく形で、社会的にこうした環境を整えていければと考えております。

その下、事業内容でございます。期日が 11 月 13 日県民の日ということで、お子さまのお休み学校等が休業日の日に事業を実施いたしました。

市内在住、在勤の小学校 6 年生までの乳幼児を含むお子さんとお父さん、お母さんも可能といたしました。

内容でございますが、県内学校等がお休みとなる県民の日に親子で参加する事業を実施しますということで、保育士による親子レクレーションやおやつをつくろう！石釜焼きピザづくり体験と試食として募集をかけましたが、参加者としては 20 世帯程度募集いたしましたが、申し込みいただいたのが 4 世帯、最終的には仕事・家事の都合によりキャンセルもございましたので、2 世帯ということになってしまいました。

課題及び反省点でございますが、多くの人数が参加できること、男性の子育て参画意識の醸成ができること、子育て家族を応援する社会づくりを念頭に事業計画したところですが、結果的には参加者を確保することができませんでした。企画内容や曜日等の課題を検討し、事業内容の充実を図ってまいりたいと考えております。

対応策でございます。

引き続き事業内容の充実を図るとともに、一方で男性の家事や育児などへの参加の理解を深めるため、男女共同参画や地方創生、働き方改革など関連する事業との連携について検討してまいりたいと考えております。

今年度につきましては、十分な効果が得られなかったことから自己評価につきましては C ということでつけさせていただいております。

ページ番号 6 でございます。

出産・子育て情報アプリ事業でございます。こちら予算額は契約金額ということで執行額と

同額の 48 万 6,000 円でございます。

事業内容は、携帯電話やスマートフォンから保育所・幼稚園・病院等の施設情報、公園情報、行事、イベント、予防接種のお知らせなど、出産・子育て世代が必要な政策や情報が一括で分かるアプリを作成するというものでございます。

実施状況及び成果でございます。

子育てサイトと子育てアプリということで運営をさせていただきました。31 年 2 月の利用状況でございますが、アプリダウンロード数は 443 件、アクセス数でございますが平成 30 年 3 月時点で 4 万 8,200 件ございましたが、平成 31 年 2 月で約 12 万 4,800 件ということで、概ね順調に増加しているところです。アクセスランキング上位につきましては、パソコンからのアクセスとスマートフォンからのアクセスということで傾向が違っておりました。両方掲載しておりますのでご覧いただければと思います。

周知方法でございますが、市ホームページ、子育てサイト、窓口等への掲示などによりまして、子育てアプリの周知しております。

課題及び反省点でございますが、各保育園等の月間予定表のアクセスがスマートフォンからかなり多くなっております。アクセスランキングで、1 番に各園イベント予定表ということで入れさせていただいておりましたが、それぞれの園が 1 位、2 位、3 位、4 位、5 位、6 位、7 位、8 位とかということで、かなり多く各園がそれぞれ多くアクセスをいただいております。今後モバイル端末の更にアクセス数が増えてくるかと思っておりますので、モバイル端末を活用した情報収集が進むことが予想されておりますので、子育てアプリの特性を活用しまして、市の情報につきましても積極的に発信できるようにしてまいりたいと考えております。

また、対応策でございますが、市内保育所等、関連事業所と連携と図りまして、操作方法の習熟やトラブル時の即時対応などによりまして今後とも沢山の情報を提供していけるようにアプリの利便性を踏まえた活用方法を検討してまいりたいと思っております。

自己評価につきましては、B 評価をつけさせていただいております。

続きまして、ページ 7 ございます。最後の事業になります。

子連れに優しい店舗の推奨事業ということで、予算額 25 万円をつけていただきました。

事業内容につきましては、子どもを連れていても安心して食事や買い物、サービスが受けられる環境を整備する店舗に対し支援ということで、駐車場へのマタニティマークの設置を助成するというので、事業内容を昨年度駐車場へのマタニティマークの設置をするための施行費の一部を助成するというので実施をさせていただきましたが、こちらにつきましては、現状

なかなか申請がないところではございましたので、今年度につきましては、②簡易設置を可能とするため、カバーサインによるマタニティマークを無償貸与するという事で、12月補正により予算化をさせていただきました。資料のほうにこういう形になりますということで、イメージ図も表示させていただいております。

こちらにつきましては、広報おみたまお知らせ版に、こういったマタニティマークを無償貸与しますということで掲載をさせていただいております。

今後ですが市内事業所等へもご案内の通知を発送したいと考えております。

今年度カバーサイン50組分を無償貸与する予定で、現在発注作成をしております。貸与するものにつきましては、カラーコーンとカラーコーンを押さえるウエイト、おもいやり駐車場という表示のカバーサインでございます。

課題及び反省点でございますが、事業所によりまして駐車場のスペースとか、費用負担とかが大変ということがありましたので、今回カラーコーンを利用した優先表示を作成いたしました。今後希望により無償貸与していきたいと考えております。お申し込みがありましたら順次受付配布していきたいと考えております。

対応等でございます。

既に実施しております駐車場への施工の助成とあわせて、簡易に設置可能なカバーサインの無償貸与を2本立てで事業者が着手しやすい環境整備事業を実施してまいりたいと思います。それによりまして、市内事業所の子育て親子に優しい環境づくりの充実に努めてまいりたいと考えております。現状のところ成果は出ておりませんでしたので、自己評価につきましてはCをつけさせていただいております。子ども福祉課所管の事業7項目につきましては、説明は以上です。

○商工観光課長（長谷川正幸君） 続きまして、商工観光課所管のフレッシューズ応援事業につきましてご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

資料8ページをご覧ください。

予算額10万円、執行額4万6,000円でございます。

事業内容としましては、小美玉市企業連絡協議会に加盟する企業さんや、小美玉市商工会青年部に所属する方々を対象に、参加者同士の情報交換や意見交換を行い親睦を深めることを目的とし、参加者1人につきまして2,000円の助成をするものでございます。

実施状況及び成果ですが、先週の3月7日木曜日に小美玉市羽鳥にございます月の宴というところで、23名参加のもと開催いたしました。

始めに研修会として参加者同士のコミュニケーションを図るため、自己紹介や所属する企業のPR・名刺交換や情報交換等を行い、その後ヨーグルトで乾杯をして懇親会に移りました。

「異業種の方と交流できる機会が少なかったのでよかった」「企業によって同じ問題に対する解決方法が違ったので新たな発見があった」などのご意見があり、同世代同士のコミュニケーションだけでなく、幅広い年齢層の方が交流している様子が見られ、全体を通して事業の目的が達成できたのかなと思っております。

課題及び反省点としましては、参加者が想定よりも少なかったことで、特に企業連絡会さんのほうの参加が少なかったこととございます。

要因としましては、開催が年度末の業務多忙期であったということと、参加者の取りまとめを商工会青年部のほうは商工会の担当者の方をお願いしたんですけども、企業連絡協議会のほうは代表企業さんをお願いし、企業連絡会のほうは開催案内が各企業の担当者レベルまでで止まっていた場合があったなど、事業内容の周知が不足していたのかなと思っております。

対応策としましては、開催時期等については、アンケート調査や聞き取りなどを行いまして、より多くの方が参加できる時期を検討しようと思っております。

また、開催前の通知文だけでなく、年度当初より企業連絡協議会の会議や、商工会青年部の定例会などで周知を行いながら継続的に参加を呼びかけていこうと考えております。

自己評価はB評価とさせていただきます。フレッシュアズ応援事業の説明は以上でございます。

○秘書政策課長補佐（箕輪淳子君） 続きます、秘書政策課所管、市長と市民のランチミーティング事業につきましてご報告させていただきます。

資料9ページをご覧ください。着座にて失礼いたします。

予算額3万円、執行額1万4,070円となります。

こちらの事業につきましては、「対話の日」を発展させ、若年層を中心とした市民と市長によるランチミーティングを実施し、地元食材を用いた昼食を通じて交流を深めることを目的としています。

実施状況及び成果につきましては、今年度5回開催いたしました。参加総数65名の市民とミーティングを行いました。みなさん当日を楽しみに参加いただきまして、地産池消の給食を味わいながら情報交換が行われました。それぞれのテーマをもとに、参加者からの日頃からの思いを身近に聞き、担当部署と情報を共有しながら対処するものについてはそれぞれ対応をしています。市制を身近に感じてもらえる良い機会となっております。

課題及び反省点それに対する対応策につきましては、実施にあたり広報紙及び市ホームページで周知募集を行い幅広い団体と実施しましたが、今後より周知を広くし多くの参加を促したいと思えます。

また、より幅広い層の市民と交流することは、行政課題の発見につながるため、参加しやすい情報発信を確認してまいりたいと思っております。市長と市民のランチミーティング事業につきましては以上でございます。

○広報公聴係長（菅澤富美江君） わたくしから、地域におけるシビックプライドの醸成事業をご説明申し上げます。着座にて失礼いたします。

資料 10 ページをご覧ください。

地域におけるシビックプライドの醸成事業でございますが、予算額 9 万 2,000 円に對しまして執行額 9 万円でございます。

事業内容は、幅広い世代におきましてさまざまな視点から市の魅力を見つけてもらい、作品をとおして故郷を誇りに思う心を育み、世代を超えて共有し郷土愛を後世へ伝えていくことを目的に、小美玉市の魅力発見フォトコンテストを実施しました。

応募作品数は合計で 24 作品で、作品テーマの内訳としてイベント部門では市内の祭りやイベントの魅力などを収めた作品。

また、風景部門では市内で見ることができる小美玉市に訪れたいような作品などを募集しました。審査の結果入賞作品につきましては、市民の日記念式典におきまして表彰予定でして、また、小川文化センターアピオスにおいて展示する予定でございます。

応募作品数が伸びなかったという課題につきましては、各部署でもフォトコンテストに類似した事業を実施していることからテーマも含めて内容について再検討しまして、対策としましては若い世代の方にももっと参加してもらえるように、SNS などを使って募集やPRを図っていきたくと思っております。

続きまして、11 ページをご覧ください。

小美玉市情報発信ボランティア育成事業でございます。こちらは予算額 6 万円に對しまして、執行額 6 万円でございます。

事業内容としましては、まず、広報紙作成研修会におきまして、地域コミュニティやまちづくり組織団体の方から参加を募りまして、現在抱えている課題や疑問点などを研修会で取り上げました。

また、デザイン基本ルールセミナーでは、市民や事業者や市職員を対象としまして、デザイ

ンに関する知識と理解を広げて市全体として発信力を高めていくための研修会を行いました。

このセミナーでは、SNSを使つての周知によりまして、若者や事業者など当初の定員を超えて数多くの参加者が集まりました。

今後の対応策としましては、幅広い年齢層の市民が参加できるように基本的な内容も取り上げながら引き続きSNSを使つての周知も継続していきたいと思っております。説明は以上です。

○シティプロモーション係長（中本正樹君） シティプロモーション事業のほうをご説明したいと思います。

資料 12 ページになります。着座にて失礼いたします。

例年製作しております小美玉市の魅力発信動画の製作を行います。

観光体験の魅力動画をつくることになりまして、「ワカサギ釣り鍋ツアー」を霞ヶ浦で体験企画として行うんですが、これを 30 秒の商業動画にして製作を現在もう進めているとこととでございます。

また、このワカサギ釣りをVR（バーチャル・リアリティ）動画と言いまして、この写真にありますとおり、専用のゴーグルを付けてあたかも自分が観ているような感覚の動画をつくっております。こちらをつくったのちは、全国各地で行っている観光PR等のブースにおいて体験できるようなゴーグルを設置いたしまして、VR体験してもらえるような体制にしていきたいと思っております。今後もこうした体験型観光企画の商業動画を増やしていきたいと考えております。

なお、小美玉ヨーグルトストーリーという魅力動画をつくりまして、こちらが先月公表されました茨城県広報コンクールで特選 1 位を、また昨年度製作した若い夫婦の 4 組のおみたま日和という動画が準特選 2 位を小美玉市が 1 位、2 位を映像部門で独占したということで、新聞記事にも掲載されておりますので、お配りさせていただいております。ご参照いただければと思います。

ページを返していただきまして、13 ページ二人の門出をヨーグルトで乾杯する事業でございます。

こちら若手職員の提案が採用されて実現した事業でございまして、今年度からスタートいたしました。申し込みいただきますと、披露宴出席者全員分のおみたまヨーグルト 130ml をプレゼントさせていただくものでございます。

乾杯シーンを撮影して市の広報に使用させていただくので、その写真を提供していただくこ

とが条件となっております。本年度は6件、618名の方を対象におみたまヨーグルトのほうをプレゼントさせていただきました。

周知方法としまして、婚姻届提出時、あるいは婚姻届を受け取りに来たときに必ずチラシを渡して案内しているほか、SNS等で宣伝しております。

また、ヨーグルトサミットで新聞記事にかなり掲載されましたが、その折に必ず小美玉市が何故第1回目が小美玉市で行うのかという際に、この事業だったり、あるいは乳製品乾杯事業例とともに、ヨーグルトのまちということで当該事業が紹介されておまして、マスコミ等を通じた情報発信による小美玉市のイメージアップに貢献している事業と感じているところでございます。

こちらにつきましても新聞記事をお手元に配布させていただいておりますのでご参照していただければと思います。

課題及び反省点としまして、紹介されるのが恥ずかしいということで写真を提供していただいているんですが、それが恥ずかしいということで申し込まないカップルがいることも耳にしております。

また、式場によっては全国展開の式場の中には本社の理解が得られませんで、持ち込み料を取られてしまうというようなケースが1社だけございました。こういったところも足を運んで説明はさせていただいているところでございます。

また、市の職員が結婚式をあげる際には、この事業制度を利用するのが申し訳ないと考え、自己資金でヨーグルト乾杯をしているケースが見受けられますので、この事業以外にも結婚式では乾杯がされているような事業でございます。

今後の対応策としましては、直接的な結婚式でのPRに加えて、マスコミにおけるイメージアップとして当該事業を活用していきたいため、このまま実施させていただければと思います。

また、家族が申し込むというよりは、やはり新郎新婦本人が申し込んでいるため、20代30代への訴求方法をより検討していきたいと考えております。以上でございます。

○地方創生推進係長（磯部朋広君） それでは、わたしのほうから14ページダイヤモンドシティ・プロジェクト推進事業のほうを説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

こちらの事業内容でございますが、官民連携による地域自走型の地方創生を推進する基盤整備としまして、シビックプライド醸成、移住定住の交流、関係人口の増加に向けた市民主導による情報発信の強化を実施ということで、今年度は3年目の総集としまして、ロー

カル&スモールビジネスセミナーというお題目で開催させていただきました。ローカル&スモールビジネスセミナーはインターネットサービスが充実した時代背景から全国的に個人や仲間
で好きなコト・モノで稼ぐ小さな複業を始める人が増えているということでございますので、
特に有名観光地を巡る従来型の観光とは別の、今だけ・ここだけ・あなただけを満たす滞在型
観光需要が隙間産業として注目されているという中で、地域の人がオススメする体験を企画す
るには、市民が地域のヒト・モノ・コトの魅力に気づき、企画し稼ぐ仕組みを整える必要があ
るということですので、その事例と導入方法を学んだところでございます。

2つの大きい事業を展開しております、1つが小美玉ローカルフォトスクール、もう1つ
が、SNS時代のライティングセミナーと題しまして開催させていただきました。

課題としましては、高まってきましたシビックプライドを地方創生ここに書いてありますと
おり、特にシティプロモーションにつなげていくための仕組みづくりを行い、市民組織が自走
するための支援を行う必要があると強く感じているところでございます。

対応としまして、市民主導によるシティプロモーションを推進するために、市シティプロモ
ーション推進懇談会を平成 31 年度に設置しまして、シティプロモーションの指針を策定する
こと、そして、指針に基づいて多様な主体による市民組織が企画する事業を行政が後押しする
体制で推進することで進めさせていただきたいと思っております。

ページ返しまして 15 ページになります。

小美玉市ふるさと同窓会応援事業でございます。

事業予算のほうは執行額 23 万円、予算額 60 万円ということでやらせていただいております。

事業の内容としましては、今年 3 年目となりますが、移住・定住の増加というのを見込んで
いるひとつの事業でございまして、29 年度一部同窓会事業の内容を改定させていただきまし
て、年齢の拡充や対象となる店舗の要件緩和等を行わせていただいた次第でございます。

今年度は平成 31 年 3 月 8 日時点になりますが、いまのところでは 3 件と前年度より少ない
形になっております。同窓会実施件数は 3 件のうち参加人数が 115 名と、対象外としましては、
先生はこの補助金の対象となってしまいますので、5 名程度の先生方に紹介となっております。

課題としまして必要な方にこの情報が届いていないというのを担当者として感じさせていた
だいております。問い合わせはありますが、要件にあわなくて次年度開催するとか、2 年後に
開催するという話はよく聞くことでございます。

対応策としましては、我々いままで SNS とホームページなどを広く公募させていただいて
いるところなんです、それだけではなかなか届いてほしい市民の方に届かないということも

ございますので、地道ではございますが参加者の口コミで拡散していただくということで、次年度主導より次回開催資料をこちらのほうにこのふるさと同窓会応援事業の内容を書いたものを入れさせていただきたいなと思っております。

この事業も今年で3年目、地方創生事業も計画策定から考えると5年ということもございまして、事業の大幅な見直しと効果が出ている出ていないの検証を行ったあとに廃止もありうるということで検討させていただきたいと思っております。

返しまして、16 ページです。

こちらヨーグルトサミットの開催ということで、予算額は 4,500 万円、執行額が 4,456 万 8,179 円という形で実施させていただいております。

事業内容としましては、ヨーグルトサミットのほう、本市は生乳生産量茨城県内第1位を誇る酪農のまちであります。発酵乳（ヨーグルト）を魅力として位置づけている、早くから小美玉ふるさと食品公社の設置や、全国初の乳製品で乾杯を推進する条例制定のように、市をあげて発酵乳の消費拡大、販売促進を行っています。

今回は地方創生とシティプロモーションの一貫としまして、平成30年10月20日、21日に第1回全国ヨーグルトサミット in 小美玉を開催させていただきました。

実施会場としましては、四季の里全体、そしてサミットの内容としましては、ビジネスサミットとイベントサミット2つに分けて開催させていただきました。

来場目標数は2日間で3万人でございます。

主催は第1回全国ヨーグルトサミット in 小美玉開催実行委員会、共済は茨城県、小美玉市、そして参加28メーカーです。それと参加自治体16自治体ということになっております。

実際の実施状況でございますが、参加自治体メーカーは16自治体とこちらは同じですが、1道8県28メーカー、1道14県は2日間、10月20日、21日あわせて3万9,000人ということで、大幅に上回らせていただいたところでございます。

出展者数は、ご当地ヨーグルト物産展のほうに28メーカー、ふるさとマルシェ36店舗、名物ヨーグルト総選挙参加メーカーは、メーカーとしては46メーカー、種類としては108種類でございました。

その名物ヨーグルト総選挙結果としましては、総投票数は2,853ということでございます。

こちらのヨーグルトサミットのほうの運営参画につきましては、市内の青年層が8チームに分かれました49人と、当日ボランティア258名、市職員、事前準備等含めまして、総勢582名の関係者が携わっているところでございます。

そして、実施結果ということでございますが、PRの波及効果ということで、これはあくまで広告換算値のほうを計算したところでございますが、3億7,941万9,624円。

そして、経済波及効果のほうが最終需要額という形になりますが、1億7,300万円という形になっております。

課題及び反省点につきましては、思っていたよりも来場者が来ていただいたということもございまして、我々が見込んでいた用意した、そして各メーカーが用意していた販売用のヨーグルトの数が足りなくなってしまうと、皆さま来場者の方に多大なるご迷惑をおかけしてしまったということがございました。ですので、対応策としまして次回開催予定の岡山県真庭市のほうにこの課題のほうを引き継ぎさせていただいております。

真庭市のほうでは、1回のイベントで4万人規模のイベント、海の市、山の市というイベントがあるのですが、そちらのほうのイベントと今回のヨーグルトサミットのほう第2回のヨーグルトサミットを抱き合わせ開催するということですので、来場者数の見込みやすいということもございますので、こちらのほうの我々の経験をそのまま引き継いで会場に当たっていただけるということでございました。ヨーグルトサミットにつきましては以上でございます。

○都市整備課長（真家厚君） それでは、着座にて説明させていただきます。

最後になります。都市建設部都市整備課所管事業でございます。

移住促進住宅取得についてご説明させていただきます。

17ページをお願いいたします。

事業名、家賃・住宅取得補助事業（移住促進住宅取得補助金）でございます。今年度予算額450万円に対しまして、執行額は全額の450万円でございます。

事業内容につきましては、の目的といたしまして小美玉市への移住定住促進のため、本市に移住される方を対象に住宅取得費及び住宅改修工事に対し補助金を交付する事業でございます。

続きまして、実施状況及び成果でございますが、今年度事業実施実績につきましては16件、前年度対比で4件の増となっております。内訳といたしまして、新築住宅または新築建売住宅の購入があわせて13件、中古住宅の購入が3件、合計16件で16世帯39人の方がこの事業を活用し本市に移住しております。その内訳につきましては、石岡市から7世帯など主に近隣から転入が多く見られております。なお、申請者16人の平均年齢でございますが、約40歳でございます。

続いて、課題及び反省点でございますが、市のホームページや広報紙及び県ホームページ内の専用サイトでございます茨城移住ナビなどに情報発信をしているところでございますが、市

外にお住まいの方が対象のため、なかなか周知が行きわたっていないことなどが思われます。

次に、対応策といたしまして、この助成制度をより活用していただくために市のホームページなどのPR方法の評価をしていくこととあわせまして、公益社団法人茨城県宅地建物取引業協会などに情報発信を図っているところでもございます。

最後に自己評価でございますが、今年度分の事業目標につきましては、予算額全額執行できましたので達成したとしA評価とさせていただきます。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○地方創生推進係長（磯部朋広君） それでは、最後に 18 ページ、平成 31 年度ダイヤモンドシティ・プロジェクト関連事業一覧のほうで説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

平成 30 年度に引き続きまして、31 年度一覧表のとおり実施させていただきます。

この中で、前年度との違いとしましては、ヨーグルトサミットの開催が 31 年度はないということ、それと、ダイヤモンドプロジェクトの推進事業が、地方創生推進交付金の 3 年間で終わったということで、半額の一般財源の持ち出しで実施させていただくということで、金額を減らさせていただいております。

それと、ダイヤモンドシティ・プロジェクトの改定事業こちらのほうが実施するような形になっております。

こちらのほうは、平成 27 年度に策定いたしましたダイヤモンドシティ・プロジェクトも 5 年目を迎えるということもございますので、いままでの事業の効果検証を行いながら新しい時代にあったダイヤモンドシティ・プロジェクトのほうもまた改定していくということでやらせていただきたいと思います。以上でございます。

○委員長（岩本好夫君） ありがとうございます。ダイヤモンドシティ・プロジェクトについて執行部から説明がありました。委員の皆さままでご意見、ご質問等ある方は挙手をもってお願いします。

○7番（谷仲和雄君） それでは、順次質問させていただきます。よろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

先ほど17事業名の詳細な説明こちらの関連実施状況調べということで、事業内容から状況及び成果、課題及び反省点、対応策等、その他というところでこちら逐一報告をいただきました。

こちら地方創生関連に関しまして各皆さん所管担当課の中で、いろんな業務を持ちながら進められているということで、大変お忙しいかなというところは想像つくところではございます。

先ほど一番最後18ページの31年度の関連事業一覧表の中で、最後に説明ありましたダイヤモンドシティ・プロジェクトの改定事業こちらのほうを取り上げながら話のほうを進めてまいりたいと思います。

先ほど、説明ありましたように、推進交付金の3年間というのが終了して今度は一財からの持ち出しという点、そういうところであともう1つPDCAのマネジメントサイクルを運用する形で評価してある事業の中から選択と周知を図っていくのかなというところで考えております。そういうところでこの改定事業1年間のスケジュールの中で、どういう工程を経て取り組んでいくかというのが分かればもう少し詳しくお聞かせ願いたいと思います。

○地方創生推進係長（磯部朋広君） それでは、スケジュールということでございますが、4月後半から5月の頭に指名競争入札によりまして業者のほうの委託を考えております。そのあとに、6月から7月の間に市民アンケート調査のほうを行わせていただきます。こちらのアンケート調査ですが、前回行いましたアンケート調査と同等の内容で聞かせていただきまして、前回とどのような意識の変化があるかとかそこら辺のところを主に調査していきたいと思っております。そのあとに、9月までの間に議会のほうにも中間で報告させていただいて、さらには内容の精査こちら各担当課とのヒヤリング等を行いまして、丁度その時期に市の総合計画の実施計画のヒヤリングのほうもありますので、あわせて同時期にはなってしまうんですが、そちらのほうも盛り込みながら決めていきたいと思っております。全体の計画としましては、ちょっと遅くなってしまうんですが、パブリックコメントは翌年1月中旬に、最終的な策定につきましては3月末に策定させていただきまして32年度からの総合戦略の改定の次期計画をスタートさせたいと考えているところでございます。以上です。

○7番（谷仲和雄君） 詳細な説明ありがとうございました。そういった中で、このスケジュールは結構タイトなスケジュールで進むのかなと思いますが、これはわたくしの所見というか、わたくし自身の考えであります。こういういろんなアンケートの意識の変化というところをいろいろリサーチ集約した形で、思い切った取り組みチャレンジというところで、予算にはなかなか厳しい制約のものがありますが、限られた予算とか人材の中で一転突破ではないんですが、チャレンジするという面白い取り組みそういうものを期待しております。この改定事業については、そちらのほう是非期待しておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、こちらは14ページの説明のところ、事業内容のところ、ダイヤモンドシティ・プロジェクト推進事業です。ここのところはシビックプライド醸成ですとか、移住定住、交流人口、それといま最近関係人口というのを耳にするようになっております。

この関係人口というのは、例えば具体的分かりやすく言えと、例えばふるさと納税で小美玉市を応援しようという寄付をいただける方も小美玉市との関係を持つということで関係人口の増加につながっていくのかなと思います。

そういったところで今後関係人口というところの取り組みにも注視してまいりたいと思いますので、逐一事業実施等報告のほうありましたらお聞かせ願いたいと思いますので、よろしくお願いたします。

もう1点、最後ですがヨーグルトストーリーが県広報コンクールで特選という新聞記事にもこちらございます。わたくしもSNSのほうでこの動画のほう拝見させていただきました。

この県広報コンクールのこちら詳細等をこのあと全国規模のコンクールというところの流れとかもしあるようでしたらそういうところを詳しくお聞かせいただきたいと思います。お願いします。

○シティプロモーション係長（中本正樹君） ありがとうございます。このヨーグルトストーリーなんですが、議員おっしゃるとおりこのあと全国コンクールのほうにエントリーされます。例年の状況で言いますと、6月ぐらいに選定がされる予定になっております。全国から県1位のものが集まってきますので、厳しい戦いにはなるとは思いますが、またプレゼン等を頑張っってやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたしたいと思います。以上です。

○7番（谷仲和雄君） 全国コンクールに小美玉という名前が出るというところで、いい結果が出るよう期待したいと思っておりますので頑張っっていただきたいと思います。そういったところでやはりハード、ソフトという捉え方で言うとソフト面これをいかにしっかりつけて取り組んでいくかという姿勢が事業の一つひとつで感じられるところでございます。

ただ最初に申し上げたように数多くある事業の中で思い切ったチャレンジというところを改めて期待するところでございますので、よろしくお願いたします。以上でございます。

○委員長（岩本好夫君） ほかがご意見等ございませんか。

○10番（福島ヤヨヒ君） 全体的に細かいところまで手が届いて若者を対象に様々な事業が展開されていることが良く分かりました。

そして、1つずつは金額的にはそんなにたいしたという言い方はおかしいですけども、小さな金額でも効果が出ているような事業がやられていてまたそれに対応するのも大変だなという思いで見させていただきました。それぞれに評価もなされていますが、A評価なりB評価というところは、それぞれの満足度の中でちょっと遠慮してBなのかなということも感じたところもありました。

そんな中でいわゆる予算をつけておきながら予算執行が十分でなかった、できなくてその分がどういう形に今後されていくのかそれが次の年の31年度には減額になっていくのか、また、同じような形でなされていくのかその対応をもうちょっと聞かせていただきたいことと、最後17ページの移住促進住宅に関しては転入転出は1年間ですが、募集期間がこれちょっと短い、住宅取得するのがこれも1年間、途中途中でわりに早くに満杯というか予定になってしまうという話をちょっと聞いたような気がするんですけど、そこら辺がどうなっているのかお聞かせいただけたら有り難いです。

○都市整備課長（真家厚君） 移住促進住宅取得補助金でございますが、今年度につきましては、昨年度は29年4月1日から30年3月31日までが対象の方でございました。今年度は要綱のほうを見直しさせていただきまして、昨年同様29年4月1日以降ということで余裕を持たせて対応しているところでございます。

また、募集の期間なんですけど、今年度は7月末日でほぼ一杯になって450万円の執行でございましたけれども、来年度以降におかれましては平成29年度4月1日以降が対象となりますので、来年度につきましても450万円しっかり使わせていただきまして不足分につきましては補正等が可能であれば対応させていただきたいと考えております。以上でございます。

○企画調整課長（佐々木浩君） 福島委員からのご質問で、執行残があるところ執行がないところ、今後の対応策についてというところで、総括してわたくしのほうからご説明のほうをさせていただきます。

個別の事業の中で、課題等ご説明があったかと思いますが、事業ごとに課題というのは様々でございます。

先ほど谷仲委員さんのほうにもご説明させていただいた総合戦略の改定というところで、来年度そういう中で各個別事案として各所管課とヒヤリングを重ねてまいります。

その中で、個々の事業の継続、拡充、廃止とかそういう議論も含めてこういうところは今後改善していきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○10番（福島ヤヨヒ君） ご苦労さまでございます。移住に関する補助、これいま多ければ補正でもってという形で対応する形で年間通じて募集していただいて、こういう制度をほかから来る方知らない方が多いかなと思ひますので、そこら辺のところもしっかりホローしていただけたらと思ひしております。まったくの感想です。若い人向けの事業が一杯だなということをおもひしております。以上です。

○委員長（岩本好夫君） ほかは大丈夫ですか。わたしから最後に1つ、この関連事業はほ

ぼ若手の職員さんが一生懸命成果を出してくれているのかなと感じております。非常に有り難いと思っております。

これ改定版ができるということなんでしょうけど、見るとしっかりと成果が出ているものもあればそうでないのかなというのを感じたりもします。

成果のほうと課題反省があったりとか、対応等も記載されていますので、しっかりとこういった部分生かして引き継いでいただいて、また、さらにいい事業にしていきたいと思えます。あまり目に見えないようなこういう事業なんだけど、以外にこういうのってじわじわ成果が出てきたりすると思うんですよね。いろんな分野に進むと思えますのでまた頑張ってくださいと思います。ありがとうございます。

この際、休憩 15 分間ほど 55 分まで休憩といたします。

休憩 14:40～14:55

○**委員長（岩本好夫君）** 休憩前に引き続き会議を開きます。

協議事項 2. 学校跡地利用についてご説明をお願いします。

○**総務部長（我妻智光君）** それでは、学校跡地利用についてこれにつきましては、本年度の 4 月に総務課に行財政改革の所管を移してございます。その一貫で進めておりますのでわたしのほうから説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。

学校跡地利活用基本方針をお配りさせていただきました。これは以前にも策定した段階でお示ししておりますが、現在この方針の 2 番に掲示しております、学校跡地利活用の基本的な考え方（1）からページ返していただきまして（6）まで示させていただきます。

この各項目ごとに詳細な検討をしているところでございます。その検討内容につきましては、小美玉市行財政改革推進本部の中にプロジェクトチームを設置いたしまして、関係部署の職員によりまして詳細に検討を行っております。具体的には戻っていただきまして、（2）耐震強度のない施設等これにつきましては基本的に基本方針では解体ということにしておりますので、それらの各学校ごとの検証を行っております。

また、（3）に示してありますように、土地所有者への土地の返還、学校によりましては近隣の隣接する所有者に土地をお借りしている部分がございます。その返還に向けての細かい具体的な検証を行っております。

また、（6）になりますけれども、各学校それぞれに地域外構、特に体育館等については地

域の利用団体の方に休日等を利用して活用していただいております。それらを継続するに当たってのルール作りを詳細に検討しているところでございます。

そういったところを進めながら基本方針の最後のところに示してございますが、各学校の統合の時期を目標として各施設、学校の個別の具体的な計画を作成するというふうにしておりますが、ご案内のように旧小川小学校、さらに橘小学校についてはもう統合が目前ということで、非常にスケジュール遅れていますことお詫びしたいと思います。今後スピードをあげて取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたしたいと思います。

また、いま現在の課題でございますけども、基本方針の考え方の（４）地域の意向を踏まえた活用についてということで、地域の意向をどのように吸い上げていくのか、また整理していくのかというところがいま現在の課題でございます。これについて先ほど申し上げましたプロジェクトチームを中心に意見の意向の確認の仕方を具体的に検討しているところでございます。具体的には学校規模配置適正化でつくった組織をもとに、地域の方々の意見を聞くたびに組織を構築して進めていければというふうに考えております。説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○**委員長（岩本好夫君）** ありがとうございます。学校跡地利用について、執行部から説明がありました。委員の皆様でご意見、ご質問等ある方は挙手をもってお願いします。

○**10番（福島ヤヨヒ君）** 跡地利用で（２）の耐震強度のない施設等に関しては原則解体しますということで、現実に小川小、橘小は４月から使われない状態になっていると。この一覧表から見るとどうしても耐震性の関係で補強しなければ駄目だというのは橘小だけなのかなという気がします。あとは、体育館にしても何にしても補強がなくて使える状況であるというふうに判断してまずいいのかどうか。壊すとなればなるべく早くそれは処置すべきだと思いますし、本当にもう廃校なので先ほどおっしゃったように（４）地域の意向これを早くまとめてやるべきではないかなとわたくしは思っております。あとは実際に校庭とか体育館をどういう状況で開放していくのか、もしそういう方針が決まっていればお聞かせいただきたいと思いますが。

○**総務部長（我妻智光君）** ご案内のように、耐震補強のなされていない施設については、先ほどの資料の４番目、各学校跡地に状況ということで、橘小学校の校舎の１と校舎の２これについては耐震補強がまだなされておられませんので、福島議員おっしゃるように速やかに解体という運びにせざるおえないという状況でございますので、ご理解いただきたいと思っております。

また、地域の意向ということで、先ほど組織を構築してというお話をさせていただきました。

これについては、先ほども申し上げましたけれども、学校規模配置適正化のほうで進めてきました組織等を参考にいま詰めているところでございますので、ご理解をいただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

○10番（福島ヤヨヒ君） 校庭、体育館の管理。

○総務部長（我妻智光君） 校庭と体育館については現在既に開放してございます。一定のルールのもとに。それを基本に今後も続けていくということで進めておりますが、廃校後の管理主体をどうするかという部分についてはまだ詰めておりませんので、その辺のルールづくりをきちっとしていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○10番（福島ヤヨヒ君） いま説明していただいたように、きちっとしていくことは大事ですけれども、廃校になってから期間が長く先まで延びていくと、市民もそれだけどうするんだらうという不安が残りますし、なるべく早い段階で結論を出したほうがいいのではないのかなという気がしますので、その点は急いで次の状況に決めていただきたい。そうするとほかの学校も今後どうしたらいいのかなという結論付けが出しやすいのではないかなという気がするのです、そこら辺十分な検討ということは大事ですけども、あまり先延ばししないほうがいいのかなと思ひますがいつ頃それが結論出るのでしょうか。

○総務部長（我妻智光君） 現在利用していただいている団体の方々には不平をきたさないように、継続して使えるようにやっていただきます。なので、この考え方のところでも暫定利用というような言葉を使わせていただいております。そういったところで現在の利用者の方にはついては、現在と同じように利用できるように進めていきながら最終的といいますか、目指すべき利用の形態についてはきちっと進めていければと二段階で考えていきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○10番（福島ヤヨヒ君） 分かりました。

○委員長（岩本好夫君） ほかにございませんか。

○20番（野村武勝君） （3）民間事業者等による利活用ということで、公共・公益的な利活用が見込まれない跡地については、売却を基本に有償貸付も含め民間業者等による利活用も検討しますと書いてありますけれど、どの校舎あたりが該当するの。

○総務部長（我妻智光君） 候補者ですか。

○20番（野村武勝君） 売るといふけれども、その場所はいまの学校についてはどの辺になるのですかということです。

○総務部長（我妻智光君） いまお尋ねされた（3）の部分については、跡地の利活用におけ

る優先順位の考え方の順位を示してございます。上から1番目が(1)に市の事業で活用する、できればもう(2)に進まないわけですよね。市でも利用しないと、次公共・公益的団体等で利活用するといった場合には(3)には進みませんので、それらの該当がなければ民間にお話をふって市の地域の特性に生かした利用をしていただけるのであれば売却も考えようかということになっておりますのでご理解いただきたいと思います。

○20番(野村武勝君) (1)(2)が決まらないとできないことだな。

○7番(谷仲和雄君) この学校跡地利活用基本方針ですね。今日この委員会の前に小美玉市のホームページで検索してみたんですが、いま載っていないかと思っておりますのでその点は指摘させていただきたいと思います。

この学校跡地利活用その前段の学校規模配置適正化により統合する形の後の跡地利活用なんですが、学校規模配置適正化の趣旨は児童数の減少に伴う複式学級の解消というところで教育的観点から適正化事業をいま実施計画に基づいて取り組んでおります。教育環境の面からですね。

それとちょっと一旦切り離しまして、当初予算の中で、委員会のほうで公共施設等総合管理計画の建物系の個別施策、これが平成31年と32年の2か年間で方針を決定するところまでいく説明がこの間の議案質疑で答弁があったと思うのですが、そうするといま教育委員会から総務の行革のほうを担当ということで、多分建物系も建物系の中には入ってくるのかなというところで考えております。そういった中で、地域の意向をいまどのように吸い上げるかというのを検討されるということでございますプロジェクトチームのほうですね。

それでスピード間を持っていま取り組んでいращやるということですので、この建物系の個別施設の計画の方針が決定の前にある程度民意を吸い上げて市としてどういう方向に取り組んでいくかというのは決めていかないといけないかと思っております。

そういうところの基本的な学校適正化の趣旨と建物系の個別施策、公共施設等総合管理計画の建物系の個別施策、リンクさせる形ではないんですが、そういったところでこの2つを勘案して学校跡地のスケジュール間というのは、具体的な細かいところではなくて大きなところ。スケジュール間というのをどうもっていくのかなというところを1点確認したいと思います。わたくしの個人の意見としましては、どのような形に使うにしてもきちっとした財源の組み立てというところが必要になってくると思いますので、急いで慌てるよりもしっかりと住民の皆さんとの合意形成を図った上で計画的な取り組みはそちらのほうがよろしいのかなという考えを思っております。そういうところでよろしく願います。スケジュール間だけおおまかに

お願いします。

○**総務部長（我妻智光君）** この資料の最後の（５）番目に目標を示してございます。

こちらの跡地利用については、各学校の統合の時期を目標としてそれぞれ個別具体的な計画を作成していくということで目標は掲げてございます。

しかしながらいま谷仲議員ご指摘のように、31年32年2か年をかけて公共施設の管理総合計画の個別計画に着手してまいります。

こちらの計画は基本は市の施設のどの施設を長寿命化対策を行っていくか、いわゆる財政負担が大きくかかる施設を洗い出して計画に乗せるというのが目的でございます。

そういった中では跡地特に校舎についてはその計画に組み込んでいくということになります。

そうすると最初のページの一番前に学校の統合配置の時期が示してございますけれども、それぞれやっていきますと最後の35年の4月までかかる予定になってございます。

そういった中でいま進めているのは目先に控えております小川小と橘小のところにいま取り組んでおりますけれども、当然スケジュールがあってこないことになっております。どう整理していくのかということも今後の課題でありますので、それも合わせて幸いと申しますか総務部の中にどちらもあってわたしのところでやっておりますので整合は図りやすいのでどう整理していくかも含めて検討していきたいと思っております。おおまかなスケジュールはこのように個別に進んでおりますが、どこかでは合わせていかなければならないと考えております。よろしくお願ひいたします。

○**7番（谷仲和雄君）** 以上です。

○**10番（福島ヤヨヒ君）** すみません先ほどお聞きするのを忘れてしまったのが、2ページの1番上土地所有者への土地を返還するんだということで、ちなみに現在のところ借地になっているところ校舎そのほか含めて細かめに説明していただけたら有り難いんですけど。

○**総務部長（我妻智光君）** 先ほど申し上げましたように、いま具体的に取り組んでいるのが小川小と橘小でありまして、小川小については素鷲神社に隣接してあるプールがあるんですけども、プールの奥の斜面、それと素鷲神社の前、校舎のまん前は素鷲神社から借りています。

それから、橘小は特別教室の一部、本校舎ではなく特別校舎の一部の部分を借地してございます。幼稚園のほうも。幼稚園と特別校舎の一部を借りておりますので、それらについては速やかに返還する方向でいま詳細に検討してございます。

○**10番（福島ヤヨヒ君）** 分かりました。

○**委員長（岩本好夫君）** ほか大丈夫ですか。ちょっと1ついいですか。

基本的な考え方の5番で民間事業者等による活用とあるんですけど、いま具体的にどっか民間事業者に募集したりとか、応募しているようなことあるんですか。

○**総務部長（我妻智光君）** いま現在は民間事業者へのアプローチは一切してございません。あくまでも内部で跡地の利用をどうしようかということでもんでいるところです。今後先ほど言いましたように地域のご意向を確認してつくっていきたいと考えております。

○**委員長（岩本好夫君）** 分かりました。さっきからも話が出ているように、学校跡地だけでなく小美玉市の保有する公共施設これからずっといろいろ統合して考えなければいけないと思うのだけど、そういうことも含めてよろしくお願ひしたいと思います。

そのほかなければ。では、2番項、学校跡地利用についてはこれで閉めたいと思います。

その他に入ります。

その前に今定例会において議会報告会に報告すべき事項この委員会で正副委員長に任せてもらってもいいですか。

「はい」の声あり

○**委員長（岩本好夫君）** 分かりました。それでは、研修視察の件で皆さんにご意見いただきたいと思うんですが。

「委員長、副委員長に一任します」の声あり

○**委員長（岩本好夫君）** 今年は改選があるんで、懇親を深めたいと思いますので、ただ時期が重なちゃうと思うのでできるだけ常任委員会、特別委員会、ほかと打ち合わせをしながら正副委員長に任せていただいてよろしいでしょうか。

「よろしくお願ひします」の声あり

○**委員長（岩本好夫君）** 分かりました。そのようにいたします。その他なければこれで閉めたいと思います。よろしいですか。

○**副委員長（幡谷好文君）** 長時間に渡りご苦労さまでした。以上で地方創生まちづくり特

別委員会の方を閉会いたします。ご苦労さまでした。

午後 3時15分 閉会